２０２４年度　学校関係者評価委員会

開催日時：２０２４年6月２６日（水）　１６：３０～１７：３０
場　　所：宮城文化服装専門学校　３Ｆ教室

委　員：馬渕　佑子　氏　（馬渕株式会社）
　　小野　義紀　氏　（オズファインクロス）

参加者：守末　紀生　　（宮城文化服装専門学校　校長）
　　神長　学　　（宮城文化服装専門学校　副校長）
　　増子　佳世　　（宮城文化服装専門学校　教務主任）
　　飯岡　昌司　　（宮城文化服装専門学校　事務長）

（１）．自己評価委員会にて評価報告書を作成
（２）．学校関係者評価委員おいて自己評価の内容を検証し、評価報告の答申を頂く。
（３）．（２）の内容をまとめたものをホームページに掲載することにより公開。

主な質問・意見と対応

・自己評価の評価が低い項目の理由は何かあるのか
→一つは教員の人員不足が考えられるので、教員確保を最優先に進めています。

・教員の自己評価に比べ、学生の評価が高い点についてはとても良い対応をしていると思います。学生の評価と教員の評価が低い位置で同水準にならないように対策が必要だと思います。

・退学者について
→退学者の低減が図られているかについて、低い評価の理由としては、各担任は学生本人、保護者と綿密にやり取りをしている。場合によっては放課後に登校しての補講や夏休み・冬休みでの補講も進言することもある。これらの対応は不登校学生への精神的負担を増やさないためにも在校生には知らせず、内々に対応することが多い。学生が退学した際、在校生はこれらを考慮しないので低減が図られていないという評価に繋がるのも一因としてあると思います。

・近年は精神的な理由での退学者も多いようなのでメンタルの対応としてのカウンセラーを導入してはどうか。
→常勤のカウンセラーを採用というのは難しい部分もあるが、出張カウンセラーなどは検討すべきだと思います。

・インターンシップの機会についての項目について
→現在教員数が少ないため、引率が出来ない事もあり実施方法を検討中です。インターンシップ自体は非常に重要と考えているので実施に向けて計画いたします。

・ＳＮＳの活用について
→ファッション業界に限らず、ＳＮＳは重要なツールとなっていることは実感しています。

学生視点でのＳＮＳの運用を心掛けていきます。